

研究授業(国語科)

テーマ 「アクティブラーニング手法」による入試現代文演習

日 時 平成27年12月11日(金) 第1限

授業者 古川真哉

対象者 3年1組生徒(41名)

■ 研究授業の概要

- ・ 大学入試問題(山川方夫「朝のヨット」)を、最初に自分で考えて解答を作り、次に4人1組のグループで意見交流をして、より高度の解答と採点基準を作成する。
- ・ グループで作成した解答と採点基準をクラスで発表する。他の班や、予備校・受験参考書の解答例を参考にしながら、再びグループで意見交流し、グループ内でまとめを行う。「振り返りシート」を用いて学習活動を振り返る。

■ 研究授業の目的

- ・ 平成26年11月20日 下村諮問「初等中等教育における教育課程の基準などの在り方について」で「…『どのように学ぶか』という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習(アクティブ・ラーニング)やそのための指導の方法などを充実させていく必要があります。」とある。今後、本校の国語の授業でも研究を本格化させていかなければならない。
- ・ 進学校では、受験のための学習指導も重要であり、こうした新しい取り組みとどのようにバランスをとるかが課題の一つとなると考えている。今回は、入試問題を課題としたアクティブ・ラーニング授業で、本校でも実践がより現実的であると考えることに取り上げた。

■ 生徒の感想

- ・ 自分の考えとは異なる読み方・まとめ方にふれておもしろかった。
- ・ 問題に対する見方・考え方が深まった。
- ・ 異なる意見を一つにまとめることは少し難しかったが、完成した答えは新鮮だった。
- ・ 少し時間が足りなかった。

■ まとめ

- ・ 生徒は主体的活動に取り組めた。
- ・ 事前学習の内容・方法は研究の余地がある。グループ学習の段取りなどには、準備に時間がかかる。
- ・ 実施にあたって克服すべき課題は多いが、今後研究を進めるべきである。

授業改善(2) 授業研究

「国語」

■ ジェネリックスキル

・国語(学校)教育で育むべき学力として、

- ①基礎的・基本的な知識・技能
- ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力(リテラシー)
- ③主体的に学習に取り組む態度(コンピテンシー)

を挙げられる。

知識を活用して問題を解決する力である「リテラシー」〔情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力・表現力・実行力…〕はもちろんのこと、経験を積むことで身につく

「コンピテンシー」〔課題発見力・計画立案力・実践力・親和力・協働力・統率力・感情制御力・自信創出力・行動持続力…〕はグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング型授業の中で身につけるべき力である。こうした力は、グローバル化社会で活躍する人材に不可欠なものであり、「国語」教育の中でも今後意識して取り組む課題である。

本校のような受験校では、伝達し、身につけさせるべき知識も少なくないため、現実的には、「アクティブ・ラーニング型授業」とのバランスを考える必要はあるが、今後、研究は推進していくべきであると考えている。

■ まとめ

・本校でも、グループワークを行い、指導者がタブレット端末を利用して学習活動を活性化したり、発問やワークシートを工夫して、グループ学習がより深まるような指導法を模索している。

・「アクティブ・ラーニング型」授業への取り組みは始まったばかりであり、今後「進学校」での実践事例を収集・研究していく必要がある。